

平成16年度国内産麦類の残留農薬調査結果

1 小麦

分析対象農薬	種類	分析試料 点数	検出点数	分析結果の範囲 (ppm)	基準値 (ppm)		基準値を 超える点数
					残留農薬 基準	登録保留 基準	
EPN	虫	7	0	—	0.2		0
MCPA	草	7	0	—	0.1		0
アイオキシニル	草	22	0	—		0.1	0
アゾキシストロビン	菌	10	0	—	0.5		0
イミノクタジン	菌	14	0	—	0.1		0
エチオフェンカルブ	虫	284	0	—	1.0		0
エテホン	成	6	0	—		2	0
エトフェンプロックス	虫	284	0	—	0.5		0
オキシ銅 (有機銅)	菌	18	0	—		0.1	0
グリホサート	草	11	1	0.01	5.0		0
グルホシネート	草	5	0	—	0.20		0
クレソキシムメチル	菌	284	0	—	0.1		0
クロルプロファム(IPC)	草	284	0	—	0.05		0
クロルメコト	成	10	0	—	5		0
シアゾファミド	菌	6	0	—		0.1	0
ジクロロ(DCMU)	草	7	0	—		0.05	0
ジクロベニル(DBN)	草	6	0	—		0.05	0
ジクロロホス(DDVP)	虫	284	0	—	0.2		0
ジフルフェニカン	草	284	0	—	0.1		0
シプロコナゾール	菌	284	0	—	0.2		0
シプロジニル	菌	284	0	—	0.5		0
シハルメトリン	虫	284	0	—	0.2		0
シマジン(CAT)	草	6	0	—		ND	0
ダイアジノン	虫	3	0	—		0.1	0
チオファネートメチル	菌	25	0	—		1	0
チオベンカルブ(ベンチオカーブ)	草	284	0	—	0.1		0
チフェンスルフロンメチル	草	25	0	—		0.1	0
テブコナゾール	菌	284	5	0.011 ~ 0.036	0.5		0
トリアジメホン	菌	11	0	—		0.5	0
トリフルミゾール	菌	284	0	—	1.0		0
トリフルラリン	草	26	0	—	0.1		0
トルクロホスメチル	菌	284	0	—	0.1		0
ハラコートジクロリト(ハラコート)	草	8	0	—		0.05	0
ピラフルフェンエチル	草	284	0	—	0.1		0
フェナリモル	菌	284	0	—	0.1		0
フェントロチオン(MEP)	虫	284	13	0.01 ~ 0.09	10		0
フェノブカルブ(BPMC)	虫	284	0	—	0.3		0
フェントエート(PAP)	虫	13	0	—		0.4	0
プロプロフェジン	虫	2	0	—		0.3	0
フルアジナム	菌	7	0	—	0.1		0
フルトラニル	菌	284	0	—	2.0		0
プロクロラズ	菌	6	0	—	0.5		0
プロピコナゾール	菌	284	21	0.01 ~ 0.11	1.0		0
プロボキスル(PHC)	虫	4	0	—		0.5	0
プロメトリン	草	17	0	—		0.05	0
ベンタゾン	草	10	0	—	0.2		0
ベンデイメトリン	草	284	0	—	0.2		0
マラチオン(マラソン)	虫	284	0	—	8.0		0
メプロニル	菌	284	0	—	2.0		0
リニユロン	草	26	0	—		0.1	0
計 (50農薬)		284	32				0

(注) 1 分析対象農薬は、一斉分析法により定量可能な農薬(22農薬)及び小麦に使用頻度の高い農薬(28農薬)を選定した。

2 種類の虫は殺虫剤、菌は殺菌剤、草は除草剤、成は植物成長調整剤を示す。

3 検出点数は、残留農薬の分析結果が定量下限値以上であった試料点数を示す。
検出点数の計の欄は、いずれかの分析対象農薬が定量された試料点数を示す。

4 残留農薬基準は、食品衛生法に基づき定められた食品に残留が許される農薬の基準値を示す。
登録保留基準は、農薬取締法に基づき定められた農薬の登録を保留できる基準値を示す。

2 大麦・はだか麦

分析対象農薬	種類	分析試料 点数	検出点数	分析結果の範囲 (ppm)	基準値 (ppm)		基準値を 超える点数
					残留農薬 基準	登録保留 基準	
アイオキシニル	草	4	0	—		0.1	0
イミノクタジン	菌	1	0	—	0.02		0
エチオフェンカルブ	虫	66	0	—	1.0		0
エトフェンブロックス	虫	66	0	—	0.5		0
オキシ銅 (有機銅)	菌	1	0	—		0.1	0
グリホサート	草	4	1	0.02	20		0
グルホシネート	草	2	0	—	5.0		0
クレソキシムメチル	菌	66	1	0.08	5		0
クロルプロファム(IPC)	草	66	0	—	0.05		0
ジウロン(DCMU)	草	1	0	—		0.05	0
ジクロベニル(DBN)	草	1	0	—		0.05	0
ジクロルホス(DDVP)	虫	66	0	—	0.2		0
ジフルフェニカン	草	66	0	—	0.1		0
シプロコナゾール	菌	66	0	—	0.1		0
シプロロニル	菌	66	0	—	2		0
シベルメトリン	虫	66	0	—	0.5		0
シマジン(CAT)	草	2	0	—		ND	0
ダイアジノン	虫	1	0	—		0.1	0
チオファネートメチル	菌	5	0	—		1	0
チオベンカルブ(ベンチオカーブ)	草	66	0	—	0.1		0
チフェンスルフロクメチル	草	5	0	—		0.1	0
テブコナゾール	菌	66	0	—	0.05		0
トリアジメホン	菌	2	0	—		0.5	0
トリフルミゾール	菌	66	0	—	1.0		0
トリフルラリン	草	5	0	—	0.1		0
トルクロホスメチル	菌	66	0	—	0.1		0
ハラコートジクロリド(ハラコート)	草	3	0	—		0.05	0
ピラフルフェンエチル	草	66	0	—	0.1		0
フェナリモル	菌	66	0	—	0.1		0
フェントロチオン(MEP)	虫	66	0	—	5.0		0
フェノブカルブ(BPMC)	虫	66	0	—	0.3		0
フェントエート(PAP)	虫	2	0	—		0.4	0
フルトラニル	菌	66	0	—			0
プロビコナゾール	菌	66	0	—	1.0		0
プロメトリン	草	4	0	—		0.05	0
ペンタゾン	草	2	0	—	0.2		0
ペンディメタリン	草	66	0	—	0.2		0
マラチオン(マラソン)	虫	66	0	—	2.0		0
メブロニル	菌	66	0	—	2.0		0
リニユロン	草	3	0	—		0.1	0
計 (40農薬)		66	2				0

(注) 1 分析対象農薬は、一斉分析法により定量可能な農薬 (22農薬) 及び大麦・はだか麦に使用頻度の高い農薬 (18農薬) を選定した。

2 種類の虫は殺虫剤、菌は殺菌剤、草は除草剤を示す。

3 検出点数は、残留農薬の分析結果が定量下限値以上であった試料点数を示す。
検出点数の計の欄は、いずれかの分析対象農薬が定量された試料点数を示す。

4 残留農薬基準は、食品衛生法に基づき定められた食品に残留が許される農薬の基準値を示す。
登録保留基準は、農薬取締法に基づき定められた農薬の登録を保留できる基準値を示す。

3 都道府県別

都道府県	小麦		大麦・はだか麦	
	分析試料点数	基準値を 超える点数	分析試料点数	基準値を 超える点数
北海道	97	0	—	—
青森	4	0	—	—
岩手	4	0	—	—
宮城	2	0	2	0
秋田	—	—	—	—
山形	—	—	—	—
福島	—	—	—	—
茨城	12	0	4	0
栃木	12	0	12	0
群馬	24	0	—	—
埼玉	16	0	—	—
千葉	1	0	—	—
東京	—	—	—	—
神奈川	—	—	—	—
山梨	1	0	—	—
長野	7	0	1	0
静岡	1	0	—	—
新潟	—	—	1	0
富山	—	—	2	0
石川	—	—	1	0
福井	—	—	9	0
岐阜	2	0	1	0
愛知	8	0	—	—
三重	9	0	—	—
滋賀	10	0	2	0
京都	1	0	—	—
大阪	—	—	—	—
兵庫	4	0	—	—
奈良	—	—	—	—
和歌山	—	—	—	—
鳥取	—	—	—	—
島根	1	0	—	—
岡山	1	0	4	0
広島	—	—	—	—
山口	—	—	1	0
徳島	1	0	—	—
香川	1	0	5	0
愛媛	—	—	5	0
高知	—	—	—	—
福岡	28	0	2	0
佐賀	18	0	9	0
長崎	2	0	2	0
熊本	8	0	3	0
大分	9	0	—	—
宮崎	—	—	—	—
鹿児島	—	—	—	—
沖縄	—	—	—	—
計	284	0	66	0

(注) 都道府県別の分析試料点数は、各都道府県における麦類の生産農家数及び生産量を勘案して配分した。